米國加州の天主堂

橋川　正

一

足を一度加州に入れたものは南歐風の地名の多いことを感ずるであらう。私の興味も亦そこから出發したのである。アメリカの歴史地圖を繙けば、現在のキャリフォーニア州が合衆國に併合されたのは一八五〇年であることを知るが、更に溯ればかつてはスペインの領土であつた。而してスペインさてはメキシコの領土である限りそこにはスペイン語が流通し、天主教の分布したことを豫測し得るであらう。今、加洲だけに限つて（現在メキシコの下加州を除く）この地方に於ける天主教の傳道は如何にして行はれたか、又、その分野に於て卓越した人格は如何といふことを尋ねて見たい。

私は國民歴史教育を知りたい上から、種々の歴史教科書を求めたが、加州で發行してゐる最も初歩のもの（William H. Mace: A Beginner's History）の終に簡單な加州史が附いてゐる。最も手近な所で先づそれを見ると、アメリカ大陸發見の後正に五十年、一五四二年にスペインの人ファン・

カブリーヨ Juan Cabrillo が大平洋沿岸を北航して殆んど金門（ゴールデンゲート）に及び新しい國土を發見した。その後メキシコを中心として新西班牙（ノヴエスパナ）（日本の記錄に所謂ノビスパン）の發展があつたが、一七六九年スペインは水陸兩方面から加州に探險隊を派したのであつた。その隊長はガスパル・デ・ポルトーラ Gaspar de Portola 件の探險隊の列伍を見るのに馬に乘つた武裝の隊長の後には他の役人が從ひ、スペインの軍隊がこれに續いたがこれと共に徒步にて步む勇敢な緇衣の人々を見落してはならぬ。焦げつく砂や岩石崢嶸たる間を五十一日間苦しい旅枕に送つて、疲勞と落膽に見舞はれたが、人々は勇敢に突進した。わけても伴天連フニペロ・セラ Padre Junipero Serra の勇邁に過ぎるものはなかつた。傷づいた脚で毎日進む伴天連に向つて、同行の人々は馬や舁を勸めたが、彼は斷然これを却けた。彼の畢生の大目的は聖院（ミッション）を建てゝこの新領土の住民に基督敎を敎へるにあつた。遂に永い旅路の最後は來た。一日先頭のものがある丘の頂上に達すると、前面にはサン・デエゴ San Diego 靑波と白砂とが見えた。そして濱邊には海路より赴いた一團の天幕があつた。かくて探險の目的を達したが、これが加州建設の第一步であつた。

今や伴天連フニペロ・セラが望み且つ祈つた時が來た。最初の天主堂は建立されて開敎は始まつた。この目的のために運んで來た鐘の包みは解かれて、樹に吊り下げられ、新しい信仰に入つた土人アメリカ印度人は嚴かに鐘を鳴らし、セラは十字架を捧げて立つた。かくて讃美歌は高らかに聞

え説教の聲は流れはじめるやうになつた。

二

私は加州建設の最も崇高な人格といはれてゐるセラの經歷を顧みねばならぬ順序になつた。セラはスペインの人、一七一三年十一月二十四日、スペインの東部、地中海のさゝやかなる島マヨルカ Mallorca＝Majorca のペトラ Petra で呱々の聲を上げた。父はアントニオ・セラ Antonio Serra、母はマルガリータ・フェーレル Margarita Ferrer。彼は幼名をミゲル・ホセ・セラ Miguel Jose Serra といつたが、一七三〇年九月十四日卽ち十七歳の時、同島のパルマ Palma でフランシス派に入り翌年九月十五日僧職に就いてフニペロと改名した。かくてその後一年間パルマの修道院で哲學を修め、醫學と説教とに秀でたが、種々の難行苦行に耐へ忍んだ。彼は短軀にして病身であつたといふから、その忍從は常人の策て及ぶ所でなかつたに違ひない。一七四九年三月三十日、サン・フェルナンド大學 San Fernando（スペインの南部現在 Andalucia 州に屬する）に進むに及び、新大陸開教に一身を獻げんと決心し、同年八月カヂス Cadiz より船出して、十二月六日メキシコのベラクルース Vera Cruz に着岸し、それより徒歩で、メヒコ mexico の町に入つたのは一七五〇年の正月元日であつた。その後十七年間、新大陸の各地に轉々として開教にいそしんだが、一七六七年七月十四日、彼は加州教區の監督に任ぜられ、州知事ポルトーラ Portola と共に北進し、前記の如くサン・

ヂエゴに達したのは一七六九年我が明和六年の七月一日であつた。

北方傳道は更に引續き行はれることになつたので彼は一七七〇年四月十六日、探險隊に加はつて出帆し、五月三十一日にモントレイ Monterey に着いた。モントレイは後に加州の首邑となつた地である。かくて六月三日にサン・カルロス聖院 San Carlos を創めたが(以上 Zoeth Skinner Eldridge: The Beginnings of San Francisco, Nol 1, p. 322 以下附註參照。一九一二年刊)、金門灣(ゴールデンゲート)の青海原を眺めたのは一七七七年十月十日であつた。その時セラの叫んだ言葉を英語に譯すれば、

'Thanks be to God that now our Father St. Fraosis with the holy cross of the Procession of missions has reached the last limit of the Californian contrnent. To go farther he mast have boats.' (Hubert Howe Bancroft: History of the Pacific states of North America. Vol. XIII, p. 297.) 參照)

であつたといふ。彼は加州の地の極みに膝まづいて、邊土開敎の上にひたすら神の祝福を祈つてやまなかつた。

三

次にセラの開創に係る天主堂について記さう。

(一) mission San Diego de Alcalà は現在のサン・ヂエゴ市の中心から七哩ばかり離れてゐるが

一七六九年七月十六日、伴天連 Juan Vizcaino と Fernand Parron との扶助を待つてセラの建立した所で、加州最初の天主堂である。當日セラはこの地の主だつた人々と八人の印度人等を從へて假禮拜堂に進み、禮拜堂、庭園、十字架に水を灑いで、十字架を安置し、最初の彌撒を詠つた。周圍の印度人は敵意を挾む程ではなかつたが、容易に親近するには至らず、又聖院では印度人の用語を解することが出來ないので進行は頗る遲々としてゐた。翌年八月になると印度人は天主堂を襲ふて逆殺が行はれたが、幸ひ大事には至らず、伴天連イスカイノは手に傷を受け、僕の一人を失ふただけで濟んだ。その後は次第に順調に進んで、セラは十五歳ばかりの土人の少年にスペイン語を敎へ洗禮を欲する幼兒の現はれんことを期待した。その少年は一日一人の幼兒をつれて來たので、セラは喜びにみちて洗禮を行はうとしたが、水を灑ぐ段になつて少年は俄に幼兒を奪つて土人の村に戻つてしまつた。かくて洗禮の無效に終つたことをセラは己が罪に歸し、後年この話の出る度にもセラは眼に涙をためたといふ。何れにしても土人開敎の並一通りでなかつたことが察せられる。この天主堂の歷史を細叙する遑はないから、これ位にして次の天主堂に移つて行かう。

（二）Mission San Carlos Borromeo は前記のモントレイにあるが、サンヂエゴの天主堂の建つた翌年卽ち一七七〇年六月三日に開かれた。セラは下加州（現在メキシコに屬する）から四十人の印度人と船乘三人、兵士五人をつれて來て禮拜堂の建設に着手し、翌年の十二月に至つて成功するを

得た。現在モントレイの兵營(プレシデオ)の西南隅に殘つてゐる櫻の老樹は正しくセラがはじめて彌撒を行つた所で、セラ上陸の百年祭に當つてその櫻の蔭に十字架が立てられた。

(三) Mission San Antonio de Padua はモントレイ郡の南部にあつて、キング・シチイを去る二十哩の地點にあるが、これは一七七一年七月十四日、セラが伴天連 Miguel Pieras, Buenaventura Sitjar と共に建立したものである。セラは前記のモントレイの天主堂の位置について心に滿たぬ所があり、なほ適當な地に開堂しようと考へてゐた。丁度モントレイの堂の建築中に、サンタ・ルチア山脈の麓、サン・アントニオ河の畔に櫻の疎らに立つてゐる處を見つけたので、早速鐘を木の枝に吊つて長く高らかにこれを鳴し、セラは大聲で叫んでいふやうには「異敎徒よ來れ、聖き敎會に來れ。來つて耶蘇基督の信を受けよ」と。然しそこには一人の土人が居るのではなかつた。セラは自ら長く鐘を鳴し且つ叫んだ後、「Mother Agrade の願ひしが如く、なべての地の上にこの鐘の聞えなんことを欲するわが心の渴望を滿たさしめよ。さなくともこの山々に住む異敎徒は聞きなまし」と自答するのであつた。その傳道精神の汪盛なことはこの一事によつても窺はれる。

かくて大きな十字架は立てられ、木の枝で作つた一棟の茅舍(エンラマダ)を禮拜堂に擬し、聖壇の莊嚴成つてセラは最初の彌撒を詠つた。他の開堂とは異つて多數の土人は程なく松の實と種子を供へに來た。そして土人は敎會堂の建築を助けることになつたので、セラは半月滯留してカルメルへ歸つた。後

には六人の兵士が居殘つて工事を監督したが、他の二人の伴天連は同時に土語の研究を始め洗禮を受けるといふ一人の土人の語を領解するやうになつた。開敎の歩みは、かくして進められるのであつた。

（四）Mission San Luis Obispo de Tolosa は一七七二年九月一日、セラが伴天連 José Cavaller と共に創める所で、五人の兵士と少數の下加州の土人とがこれに隨從した。その地點はスペイン人によつて Canada de los Osos（熊の谷）と呼ばれた處で、セラはサンデエゴへの歸途この天主堂を建てたのである。セラは土人の好む赤砂糖を澤山殘して、土人を近づける手段を講じたので、小さい禮拜堂と住居とは間もなく出來上つた。然し一七七六年の十一月に土人は火箭を投げ込んだので木造の屋根はひとたまりもなく燃え始め禮拜堂と穀倉の外は炎上してしまつた。十年の間に同じやうなことは二度までも起つたといふからこの地の開敎も容易でなかつたことが判る。

（五）Mission San Juan Capistrano はロスアンゼルの南六十三哩、サンジエゴの北七〇哩の處にあるが、セラ以前にも天主堂を建てようと試みた伴天連があつたけれども不成功に終つた（一七七五年十月）。その時は鐘を木に吊つて大十字架を立て茅舍の中で彌撒を唱へたに過ぎなかつた。一七七六年十一月一日、セラは再びこれを試み十二月十五日に最初の洗禮を行ひ、年内に四十人の信者が出來た。翌々年十月、セラは再びこの地を訪れ、滯在中に總計百四十七人の堅信禮を行つた。八

三年十月セラが三度この堂を訪れた時には、九十人の幼兒に堅信禮を施したと自ら記してゐる。この天主堂の記錄によれば、現存する堂は九七年二月に工を起して、一八〇六年に竣成したといふ。この工事に當つてよく土人の奔走したことも該記錄に詳しく傳へられてゐる。

（六）Mission San Buenaventura は Ventura の町にあるが、ロスアンゼルスの北六十一哩に位する。この天主堂は一七八二年三月三十一日、伴天連 Pedro Benito Cambon と共に獻堂した所であるが、セラの考へではこれを第三に建てるつもりであつだが、爲政者との行違ひから延引したのである。セラはモントレイより南して獻堂式に臨んたが、周圍には土人の住する者が多く、伴天連の仕事を扶けて、先づ一茅舍が出來たので鐘を木に吊つて十字架を祝福し、セラは最初の彌撒と說敎とを試みた。建造物を繞らすに柵を以てし、溝を掘つて水を構内に引いた。十年の間にこの天主堂は最も盛んな居住地となり、果樹園には樣々の果實が熟するやうになつた。この敎會は石と練瓦を以て築かれ、一八〇一年に工を起して、同九年九月九日に獻堂式が行はれた。聖壇や數々の繪畫はメヒコ市から運ばれたといふことである。

セラの建てた天主堂は全て九院といはれるが、セラが直接關係してその職務を司つたのは以上の六院である。加州の地が合衆國に併合せられるに至るまで天主堂は總計二十一院に達したが、その繁榮の基礎を築いた第一人者としてフニペロ・セラの名は永遠に傳へらるべきであらう。二十一院

の名を擧げることは煩はしいから、こゝに略するが、その沿革の一般は Forbes 夫人の著はした California Missions and Landmarks（羅府、一九二五年刊）によつて知ることが出來る。以上私の記述もそれに負ふ所が多い。

なほ天主堂には附帶して記すべきことは道路の修造で、南はサンヂエゴから北はソノマに至るまで、二十一の天主堂と三の町（プエブロ）と四の兵營（プレシデオ）とを連繫するに大道を以てした。これはスペインの用ふる常套手段で、スペイン本國では十三世紀以來實行されてゐるが、この邊土に於てもこれが行はれたこの大道を El Camino Real（王道）と稱し、今日これが、加州の州道となりこれを保善するための協會まで組織されてゐる。この王道の修造は加州開教史上に沒すべからざるものであらう。

四

セラの天主堂を叙した私は、次にこの偉聖の臨末を描かねばならぬことになつた。セラは前記の王道を始終跣足で歩きながら天主堂を訪れては教俗兩方面の指導に倦まず、土人に農耕、商賣、音樂等を教へた。セラは前後十年間堅信禮の聖晩餐を施行する特權を有したが、その間に五千三百〇九人の堅信を行つたといふ。

前記の第六の天主堂を起した翌々年卽ち八四年の一月、南方に於ける堅信禮からの歸途、サン・ヂエゴよりサン・アントニオに至る各聖院を歴訪し、六月サン・フランチェスコ及びサンタ・クララ

の北方教會を最後に訪ねた。そして海路モントレイを去つたが、その容態から察して誰も再來は疑しいと思つた。勿論彼自身もさう思つてゐた。彼は久しい間胸の病と脚の腫物で苦しんだが、無頓着であるために疾患は段々惡くなるばかりであつた。それにも增して、彼の永い間の伴侶であつたCrespiの死んだことは、一層病勢を募らせた。サン・ガブリエルに至つて全く動けなくなつたが、彼は牧羊者が羊の脚を傷めた時に施す治療法を、己れの脚に試みさせた。牧羊者は命令通りにやつて見たが、案外それが功を奏して翌日から歩けるやうになつた。一同はたゞ不思議と驚くの外はなかつた。意志の强い彼は相變らず徒歩で北上し終にモントレイに辿りつくことが出來た。八月二十六日には一般の懺悔を行ひ、翌日その地の人々の臨場を乞ふて最後の聖晩餐を行ふために教會堂に赴いたが、同時に大工に命じて己れの柩を作らしめた。彼は身に油を塗り人々と共に連禱にいそしみ曉に至るまでひたすら赦免を乞ふた。二十八日の朝甲比丹カニサレス Cañizares の訪問を受けたので、敬意を表して鐘をならさしめ、その後古き友バロウ Palou と話し、易簀した時には加州のために祈るやうにと告げた。かくして一時間ばかり苦しみの色を見せたが、すぐ平穩に歸し最後に自然の外觀を見たいといつて戸外に出た。午後一時に歸つて祈りの後休息に横はり、安らかに眠るやうに見えたが、一時間の後バウロは彼の死んでゐるのに氣がついた。行年七十歳九ケ月。鐘は直ちに悲しき報せを告げた。彼は質素な僧服に身を包んでゐたが、ほのぐらい六本の蠟燭の光に照らさ

れて柩の中に收められた。「伴天連クレスピと隣り合つて教會堂に葬つてくれ。石の教會堂が建つた時にはどこでも置かうと思ふ處に葬つてくれ」といふ彼の遺言に任せて、二十九日の安息日にパウロは教會堂に葬つた。モントレイのすべての人は會葬した。土人は彼を被ふために丘に咲く花を腕一杯に携へて來た。葬儀の後彼の遺物は片々に分配されてしまつたパウロの書いたセラ傳 Relacion Historica de la Vida etc. de Junipero Serra（メヒコ、一七八七年刊）の最後の章に於て「神の召使伴天連フニペロに於てこそ諸の功德は殊に輝かしけれ。彼の活動的なる模範とすべき生涯は、種々の秀づる花もて裝はれし美はしき野邊に外ならず云々」と概括してゐる。因みにいふパウロのセラ傳は C. Scott Williams 教授によつて英譯され、一九一三年に加州のパサデナで出版されてゐる）。彼の說教は金玉の文字であると評されてゐる所から察しても唱導に巧みであり、從つて聽衆に感動を與へることも深かつたに違ひない。彼が臨末に當つて戶外に出て大自然の風光を愛でたことは、奇しくも蓮如上人の事蹟と似通ふのであるが、時を隔て處を異にして共に傳道精神の盛んであつたことゝ共に私は奇異の感を懷かざるを得ない。而して又熟々加州開教の往時を顧みつゝ、天主教が日本に傳來した時代を思ひ合すのである。かの伴天連ハヰエル Xavier の如きは、セラと頗る共通性の多い人格のやうに思はれるが、開教の蔭に政治的侵略の計畫の潛んでゐたことは恐らく事實であらう。秀吉・家康は早くもこれを看破して禁教令を發したのであらうが、若し禁教令が布か

れなかつたならば、政治的侵略の魔手は恐らく日本にも及んだことであらう。私がスペインの加州開教を顧みて、右のやうに考へることは非理である、と何人も斷言は出來まいと思ふ。而してセラの傳道熱がハヰエルの業績に刺戟を受けたといふことは、實に奇しきめぐりあはせといはねばならぬ。

五

前記のセラの建立に係る天主堂の中で私は(一)(五)の二院を踏査し得たから、そのことを終に少しく記しておかう。踏査の順序に從つて(五)を先にする。

昭和四年十一月二十八日、京都に居れば御正忌で自坊のあたりは人足繁きを耳にする日である。今年は異國の旅に御正忌を迎へたことであるから、せめて古寺巡禮の志にもや資せんとて、午前十時頃ロスアンデルスの旅館を立ち出で、自動車でサン・フアン・カピストラノ（現在米國ではスペイン語のHを殆んど發音しないから、サン・オン・キヤピストラノと耳に響く）に向つた。同伴はT・MYの三君、M君の操縦で車は砥の如きペーヴを滑つて行つた。私は羅府を出る時、わざ〳〵壽司を用意して來たので、晝食は車内で四人ぱくついて濟ませた。談笑風發、日本内地を旅行するのと少しも違ひはなかつた。車はオレンヂの圃、ユーカリの並木の間を走つて午後二時頃目ざす天主堂の前に着いた。一人二十五仙の拜觀料を納めて、庭園に入れば、眞先きにセラの銅像が目につく。片

手を高くさし揚げて、片手で土人の子供を抱いてゐる姿で、宛もセラの加州に對する愛を象徴するものゝ如くに感ぜられた。境内には胡椒の木がこんもりと茂り、龍舌蘭や仙人掌の間には南國的な色を見せて草花が點々と咲いて、實に小春日和ともいふべきよい日であつた。厨房や僧房は今古物陳列室となつて、そのかみの傳道時代を物語る品々が陳べられてゐる。メキシコやスペインから齎されたと覺しき僧服、油繪、聖典等もあつた。こゝを出て右手に進めば禮拜堂であるが、一八〇〇年の地震で倒壞したまゝになつてゐるので、僅かに聖壇のあつた壁だけが殘つてゐる。禮拜堂の一隅の敷瓦の上に吹き寄せられた枯葉が、時折かさこそと舞ふてゐるのが、徒らに寂寞を感じさせるばかりであつた。

禮拜堂や住房の背後には一エーカーもある内庭（パチオ）がある。この内庭を La Plaza da Mission（聖院の廣場）とも呼び、その周圍には日本の古代寺院の室（むろ）に當るやうな建築がある。こゝは土人の授産場であつて、大工、鍛冶、毛布製造、果實乾燥等を戸外で行つた。これより先き私がサン・ガブリエル・アルケンゼル（一七七一年、伴天連 Somera 及び Cambon の創建に係る）を訪ねた時、その境内の一隅で鍛冶工の遺蹟の發掘されたのを目睹したが、同樣のことは何れの天主堂でも行はれたのである、今やこの天主堂も荒廢に歸して跡方もないが、アメリカ印度風の意匠を施した陶器を製造してこれをひさいでゐるのは、往古の内庭生活の名殘といふことが出來る。なほ鐘壁（カムパナリオ）に大小四口の

鐘が吊つてあるが、その中二口には何れも一七九六年の銘刻がある。卽ち大なるものには

VIVA JESUS, SN VICENTE ADVON DE LOS RRS PS MIROS F VICTE FUSTER IE JN SN TIAGO 1796.

（讃むべきかな耶蘇。サン・ヴーセンテー。尊敬すべき教父牧師、伴天連ヒュステル並びに同ファン・サンチアゴの記念のために。一七九六年）

而して小なるものには、

AVE MARIA PURISIMA ME FESIT RUELAS I ME YAMO S. JUAN, 1796.

（あゝいとも純きマリア。リュエラス吾を作れり而してわが名はサンファンなり。一七九六年）

而して他の二口には一八〇四年の銘刻があるが、四口とも本來この天主堂のものではなく他の教會から持ち運ばれたものとされてゐる。私はこゝで出版された寺誌の小冊子（St. John O'Sullivan: Little chapters about San Juan Capistrano, 1912）を求めて辭去し、片頰に西日をうけながらサン・ヂエゴと道を急いだのであつた。

翌くれば二十九日、サン・ヂエゴの巷を後にし聖院谷（ミッション・ヴレイ）に向つた。いふまでもなくサンヂエゴ・デ・アルカラを尋ねんがためである。ふと見れば左手の丘上に新しき教會堂があるので先づこれを訪へば、中からいともつゝましく一人の尼が現れ、やさしい言葉で私の訪ねようとする古聖院はこゝに

あらで、かの隣の丘の上なりと教へてくれた。こゝは恐らく加州傳道發祥の地を記念して近く新しき修道院を起したものであらう。教へられたまゝに隣の丘の上に辿りつくと、天主堂は殘骸を露はして哀れな姿で立つてゐる。乾瓦(アドウビ)で築かれた禮拜堂であるから雨露にさらされ易いとはいへ、十八世紀末葉の建築がかくまでの廢墟になつてゐるとは豫想外であつた。今は全く住む人もない。この天主堂は前記の如く加州最初のもので、セラの心血をこめた所であり、幾百幾千の靈の安息所となつたのであるが、過去の幻影の如く白日に廢殘の姿をさらしてゐるにすぎぬ。嘗て移植された胡椒の木だけは茂りに茂つて、ほのかに鼻を刺す匂をあたりに漂はせてゐた。私は大和の菅原寺や飛鳥寺を訪ねた時と同樣の印象をいたく刻み込まれるのであつた。禮拜堂の裏にまはつて穀倉か厨房かと思はれる室に入つても見たが、たゞ崩れてゆく壁土の匂ひを呼吸するに止まつた。

この天主堂は水の便が惡いので三哩も上手から暗渠で水を引いたといふ。その堰は一八七四年に成り、深さは十三呎もあり、それから引いた暗渠は深さ一呎、廣さ二呎あつて、堂の周圍の灌漑をも助けたといふことをフォーブス夫人の著書で知つてゐたので、心當りを搜しても見、近所の人に聞いても見たが遂に搜り當ることは出來なかつた。天主堂が同時に地方文化の搖籃であつたことを思ひ浮べて滿足しておかねばならなかつた。聖院谷(ミッションヴレイ)から古町(オールドタウン)に出で有名なラモーナ婚嫁の家 Ramona's Marriage Place を訪ねた。ラモーナはこの地に住んでゐたスペイン佳人の名、スコットラ

ンドのAngus Phailと戀におちてこゝで結婚したといふジャクスン夫人のラモーナと題する物語は數年前米國青年士女の若き血を湧かせた所で、あの鼻のつまつたやうなジャズの流行唄で人口に膾炙されたのであつた。今では米國の出雲大社で緣結びの地となつてゐる。然しその陳列室には敎會に關係した遺物も少なからずあるから、一覽の價値はある。同時に迷信の盛んな米國の一面が窺はれて面白く感じた。私はそれからポイント・ローマの神智學會本部を訪ねたが、次第に主題とは遠ざかつて行くからこの邊で切り上げよう。

終にセラの書簡集Carres pondenciaは一七七七年から八二年に亙るといふのが寫本だけのやうである。前に擧げたバンクロフト著の太平洋岸諸州史の史料目錄の中にセラの筆になる寫本を十二種數へてゐる。私は、サン・ガブリエル天主堂所藏の一七七八年十一月の堅信禮記錄Libro de Confirmacionesで、はじめてセラの筆蹟に接したがその桑港金門公園內の博物館で、一七七四年五月十九日、甲比丹Pedro Fargasに宛てゝ出した尺牘を見ることが出來た。僅か百五十餘年前のものであるが、歷史の新しい米國特に太平洋岸地方に於ける最も古い文書の一つに數へねばならぬ。

（昭和四年師走二十日、エル、ドラドの夕陽を浴びつゝ擱筆）